

逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会

平成30年度事業に関する評価報告書

令和元年9月

目 次	頁
1. 趣旨	1
2. 調査・評価の対象と方法	2
3. 総括	3
4. 基本計画と対象事業の関係	4
5. 評価シート	5
参考資料	22
1. 逗子文化プラザホール 平成 30 年度自主文化事業一覧	
2. 逗子市文化振興基本計画 調査・評価委員会規則	
3. 逗子市文化振興基本計画 調査・評価委員会 委員名簿	
4. 逗子市文化振興基本計画 調査・評価委員会 会議日程	

1. 趣旨

逗子市文化振興条例（平成 21 年 10 月）（以下、「条例」という。）では、「文化創造の主役は市民であり、市民は文化を創造し、享受する権利を持つことを市は認識しなければならない。そのために、市は市民の文化活動を広く支援し、必要な環境を整備する使命を負っている。」（前文より）と述べ、市の責務として「市は、文化活動を行う市民、団体及び事業者と協働し、地域における人材、資源、情報等を活かして、文化の振興を図るものとする。」（第 4 条第 3 項）と定めている。この条例は、制定の際に様々な検討が重ねられた結果、文化を独立した行政分野として位置付け、その振興に取り組むべきであることを指摘し、文化における市民の権利を明文化するとともに、市の文化振興施策の基本方針を定め、市の責務をより明確に示したものである。

これに基づき、「文化振興施策を総合的かつ計画的に推進するため」に『逗子市文化振興基本計画（平成 23 年 3 月策定、平成 27 年 3 月改訂）』（以下、「基本計画」という。）を策定した（条例第 5 条）。そこで「地域の文化を市民の手で拓く」を基本方針として、6 つの「施策の柱」のもと、18 の「基本施策」を体系化している。

また、「基本計画の推進に当たって、基本計画に基づく施策、事業等が的確に実施されているかどうか等について、調査、評価等を行う組織を設置するもの」（条例第 7 条）とされ、平成 24 年度に文化振興基本計画調査・評価委員会（以下、「委員会」という。）が発足した。この組織は、「基本計画の内容及び基本計画に基づく施策、事業等の評価、見直し等について調査、検討を行い、その結果に基づき市に提言するもの」（条例第 7 条第 2 項）とされている。

平成 30 年度の評価に当たっては、平成 29 年度に見直した調査・評価の方法を基本的には継続することとした。基本計画の 6 つの「施策の柱」とそれぞれの施策の柱の下に位置付けられた「基本方針」が、平成 30 年度中に実施された事業によってどの程度実現できたか、という視点から評価するとともに、上記の事業のうち、基本計画の上位計画である逗子市総合計画実施計画及び基幹計画「共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン」の対象事業として位置付けられているものについては、計画上での目標を示し、達成状況について評価の中で考慮する、というものである。

今後、この評価報告書を踏まえ、基本計画に基づく施策や、事業がよりの確に実施され、市の文化振興施策が市民に資するものとなることを願っている。

2. 調査・評価の対象と方法

平成 30 年度は、平成 29 年度に行った評価方法の変更を基本的には継続し、いくつかの変更を加えた。

評価に当たっては、6つの「施策の柱」毎の評価シートを設けて、「基本施策」が掲げる目標に対して、対象事業の取組みの結果と、文化振興所管課（文化スポーツ課）の自己評価を求め、それに対する本委員会としての評価を行った。評価は、実現度合いを以下の3段階で評価した上で、意見を述べることとした。

- a. 順調である。
- b. 概ね順調である。
- c. 順調であるとみなせない。

変更点としては、基本計画の6つの「施策の柱」と平成30年度中に実施された事業（以下「対象事業」という。）の関係を図式化したものを追加した。（5頁）このことで、対象事業の中でも特に「逗子文化プラザホール（自主文化事業）」と「逗子アートフェスティバル」の2つが、文化振興にかかる様々な期待と役割を担っている状況が明らかになった。また、対応事業について平成29年度の実績についても記し、比較しながら事業の状況を理解できるようにした。（6～8頁）更に、平成29年度中に策定された財政対策プログラムによる影響に関することを、6つの「施策の柱」毎の評価シートに追加した。

3. 総括

今回の調査・評価に当たって、以下の2点について指摘したい。

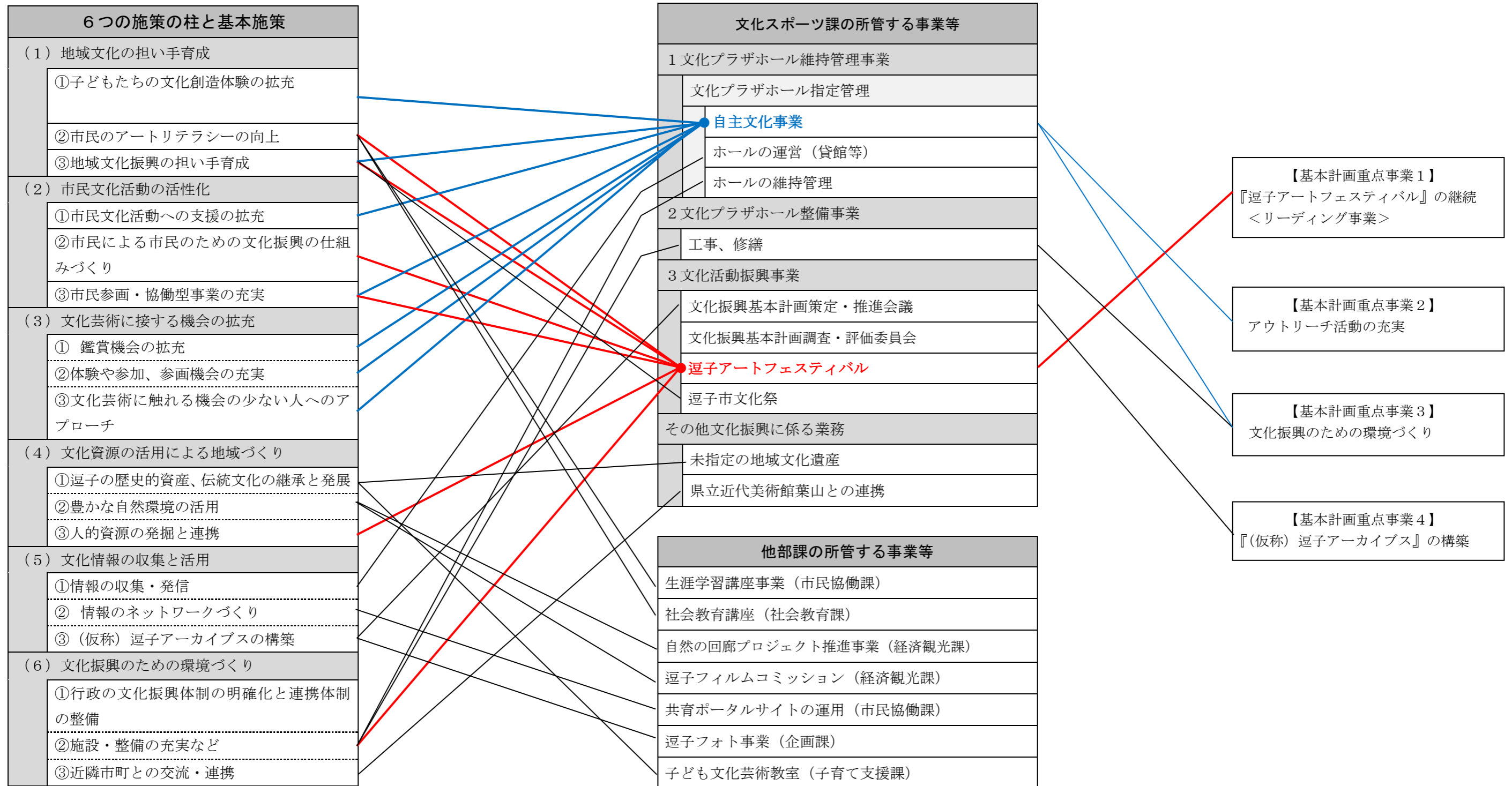
一点目は、逗子文化プラザホール（以下「ホール」という。）の管理運営と、逗子アートフェスティバルの実施が中心となっている本市の文化振興の現状である。次頁の「基本計画と対象事業との関係」を見ても明らかであるが、市の文化振興の拠点であるホールの管理運営と、総合計画実施計画におけるリーディング事業でもある逗子アートフェスティバルの実施は、基本施策の6割以上に關与しており、基本計画の実現に寄与する重要な事業である。しかし別の見方をすると、当該2事業の実施が文化振興施策に偏っていることを表していると言え、市全体の文化振興を目指す行政の施策の観点から適切か、検証する必要がある。ホールについては平成26年度から指定管理制度を導入しており、逗子アートフェスティバルについては市民主導型の事業に成長してきている。市は、2事業が円滑に遂行されるように、引き続き行政として責任を持って協働するとともに、進捗が遅れている、あるいは手つかずになっている施策の推進に努めるべきである。特に、施策の柱「(4)文化資源の活用による地域づくり」については、まだ十分に活用しきれていない地域の文化資産（歴史的資産や伝承文化、自然環境、人的資産）をいま一度見直して活用に向けた検討を行うべきである。また、「(5)文化情報の収集と活用」における「(仮称)逗子アーカイブスの構築」と「(6)文化振興のための環境づくり」における「行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備」の2つについては、未だ部分的な実施に留まる現状から抜け出し、実効的かつ具体的な動きに入るべきである。「(仮称)逗子アーカイブスの構築」については、(仮称)がいち早く取れるような取組みに移ることが望まれる。

二点目は、緊急財政対策と今後の財政状況を鑑みた、文化振興施策の取組みのあり方である。緊急財政対策は、平成30年度及び令和元年度を集中対策期間としているが、ホールの指定管理料の減額による福祉施設へのアウトリーチの未実施等、基本計画の実現に影響するようなことは極力避ける努力が不可欠である。

今後、財政状況を見極めながら、予算の減額や休止を行った事業については、できる限り早い時期に一部緩和や復活を検討されたい。合わせて、文化振興施策の取組みのあり方も見直す必要がある。このことについては、行政内外のつながり（行政内や市民団体等との協力・連携を一層図り、知恵を出し合い、知恵と知恵を結び付けて新たな知恵を生み出し、活用する等）によって、限られた予算のなかで最良の結果を生むような取組みのあり方を模索していくことが求められる。

一方、逗子アートフェスティバル2018での「逗子アートネットワーク」の設立と活動等に見られるように、市民の文化活動にかける力の高まりは非常に大きなものがあり、今後の更なる活躍と発展が大いに期待される。市は、この度の緊急財政対策を機に改めて確認できた市民の力と上手く協働し、引き続き、市民が文化によって豊かで充実した暮らしを継続できる環境整備に努めることを切望する。

4. 基本計画と対象事業との関係



5. 評価シート

逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会 平成30年度事業に関する評価報告書 対象事業一覧

(1) 地域文化の担い手育成		(平成29年度実績)
①子どもたちの文化創造体験の拡充		(平成29年度実績)
●【ホール】アート便2018	小中学校アウトリーチ。市立小中学校全8校で21件(授業数)。児童・生徒延べ1,925名参加。	市立小中学校全8校で21件。1,884名参加。
●【ホール】逗子子ども能2018	2月24日(日)。小・中学生19名参加。稽古全21回。	小・中学生31名参加。稽古全21回。前日の「お囃子コンサートにも出演」
●【ホール】絵本作家山本省三さんと一緒に絵本をつくろう2018 子どものための手作り絵本講座	7月16日(月・祝)、22日(日)、29日(日)2クラスで開催。69名参加。8月5日「手づくり絵本のミニ展覧会」ホールオープンデーに合わせて、なぎさホールホワイエで開催。	2クラスで開催。67名参加。
②市民のアートリテラシーの向上		(平成29年度実績)
●逗子アートフェスティバル2018の開催	10月12日(金)～10月28日(日)。来場者数約23,267人。	トリエンナーレ方式で開催。来場者数約83,496人
●市民による文化事業への後援、協力	共催1件、協力10件、後援15件 合計26件。	共催1件、協力12件、後援15件 合計28件。
●文化に関する講座の実施	生涯学習講座事業111講座(所管:市民協働課)うち、ずし楽習塾講座は29講座108回。参加者延べ1,343名。社会教育講座4講座、参加者延べ78名。文化財関係1講座、参加者40名。(所管:社会教育課)ホールにおける講座「能楽事前講座」2月15日(金)、22日(金)2回開催。一回目19名、二回目17名参加。(定員各50名)	生涯学習講座事業128講座、ずし楽習塾講座は32講座110回。参加者延べ1,462名。各種講座事業7講座 参加者228人。ホールにおける講座「能楽事前講座」2回開催。一回目28名、二回目12名参加。(定員各50名)
③地域文化振興の担い手育成		(平成29年度実績)
●逗子アートフェスティバル2018 アートフォリオ展、自由企画、ボランティア活動	アートフォリオ展12作品のうち市民参加6作品、自由企画6企画、ボランティア活動(逗子コンシェルジュ:会場案内)延べ173名が参加。	市民企画33、逗子市文化祭20企画、ボランティアは延べ36名、7日間活動。
●第68回逗子市文化祭	10月26日(金)～11月12日(月)。芸能部門7行事、展示その他部門10行事。入場者数5,966名。逗子アートフェスティバルから分離して開催。	逗子アートフェスティバル2017の中で開催。芸能部門9行事、展示その他部門10行事。入場者数6,582名。
●【ホール】若手演奏家シリーズ	7月14日(土)「#7 弦の響き—弦楽四重奏×ピアノ—」さざなみホール、142名来場。 3月9日(土)「#8 木管五重奏の愉しみ」さざなみホール、141名来場。	#5 96名来場、#6 149名来場
●【ホール】ZUSHI COMMUNITY PARK GARDEN CAFÉ KAMEGAOKA 2018 SPRING/AUTUMN との連携 若手演奏家の出演	5月20日(日) 亀岡八幡宮。逗子コミュニティパーク実行委員会主催のイベントに若手演奏家シリーズ#7の出演者が「ごきげんようカルテット」として出演。 11月3日(土祝) 亀岡八幡宮。逗子コミュニティパーク実行委員会主催のイベントに若手演奏家シリーズ#8の出演者が出演。(木管五重奏)	AUTUMN(11月5日(日))のみ出演。#6の若手演奏家。
●【ホール】スペインセーリングチーム事前キャンプ協定締結式ミニコンサート 若手演奏家の出演	9月18日(火) 市民ホール。若手演奏家による木管五重奏とピアノの演奏で、スペイン国歌等を披露。	—
●【ホール】ZUSHI パフォーマーズフェスタ vol. 4	10月20日(土) 応募14件に対して4組出演。	応募8件に対して6組が出演。
●【ホール】ボランティアライター活動	ボランティアライター登録数12名。3月16日(土)「情報発信ボランティア交流会」10名参加。	登録数18名。
●【ホール】レセプションフォロアアップセミナー	1月22日(火)、26日(土)なぎさホール、レセプション15名参加。	レセプション19名参加。
(2) 市民文化活動の活性化		(平成29年度実績)
①市民文化活動への支援の拡充		(平成29年度実績)
●【ホール】市民企画講座 舞台技術体験講座	9月29日(土)、10月8日(月祝)、10月20日(土)3回連続講座。最終日は舞台スタッフと共に「ZUSHI パフォーマーズフェスタ」の舞台運営を行う。募集8名中1名参加。	「バックステージツアー」募集10名に対し2名参加。
●【ホール】絵本作家山本省三さんと一緒に絵本をつくろう2018 おとなのための手作り絵本講座	11月18日(日)、12月1日(土)、12月9日(日)3回開催 34名参加。	2回開催。29名参加。
②市民による市民のための文化振興の仕組みづくり		(平成29年度実績)
●逗子アートフェスティバル2018実施を目的とした、逗子アートネットワークの設立	全体でのミーティング13回、発起人や担当者だけのミーティング12回、池子の森の音楽祭ミーティング2回、ワークショップ2回	逗子アートフェスティバル実行委員会として活動。全体会3回、役員会10回、部会9回、キックオフミーティング等3回。
③市民参画・協働型事業の充実		(平成29年度実績)
●逗子アートフェスティバルの継続、アートフォリオ展への市民参加、自由企画の実施	2013年のプレアートフェスティバルから、30年度で6回目。アートフォリオ展12作品のうち市民参加6作品、自由企画6企画 ※前掲	市民企画33企画。

●【ホール】市民企画事業/創造支援企画	4月25日(水)「駅前寄席 in 逗子文化プラザホール」。なぎさホール、434名入場。 6月30日(土)「音楽のまちづくり・街角おんがく会」。さざなみホール、140名入場。 1月13日(日)「コンチェルト・カメラアローズ スペシャルコンサート」。なぎさホール、140名入場。	1公演を実施。11月12日(日)「ムジチーレン in 逗子 スペシャルコンサート」。
●【ホール】ホールレセプション(Re-Ce)活動	ホールレセプション(Re-Ce)活動を継続実施。	ホールレセプション(Re-Ce)活動を継続実施。
●【ホール】第3回トモイクフェスティバル	3月23日(土)～24日(日)に開催。 プレイベントとして、3月3日(日)ホールシネマ「世界でいちばんのイチゴミルクの作り方」を開催。他のイベントでは共催者として会場及び舞台技術を提供。逗子アートフェスティバル2018からの企画「アートを通して、みんなで作る・暮らすプロジェクト ごみ→アート→ぼくのもの ワークショップ」にも会場を提供。	3月24日(土)～25日(日)に開催。
(3) 文化芸術に接する機会の拡充		
① 鑑賞機会の拡充		(平成29年度実績)
●【ホール】鑑賞型事業の実施	11件実施。(1件は出演者都合により中止)。鑑賞型事業の参加者満足度平均86.8%。	16件実施。
②体験や参加、参画機会の充実		(平成29年度実績)
●【ホール】逗子こども能2018 ※前掲	10月～2月まで全21回の稽古を実施。2月24日(日)『第11回逗子こども能2018発表会』を開催。	小・中学生31名参加。稽古全21回。前日の「お囃子コンサートにも出演」
●【ホール】逗子アートフェスティバル2018 連携企画 ゴローさんとホールに描くオーバークラウドローイング!ワークショップ	8月5日(日)、29日(水)、9月9日(日)、15日(土)、10月13日(土)。ホール1階ロビーの窓ガラスに絵を描くワークショップ。10月の会は海外転居したアーティストとリモートでつないでワークショップを開催。	—
●【ホール】ホールオープナーワークショップ等	8月5日(日)「ホールのお仕事を体験! こどもレセ体験」8名参加。「革でつくるオリジナルキーホルダー」37名参加。「やってみよう! 見てみよう! 1日館長体験♪」8名参加。「こどもチンドン屋さん」27名参加。	8月2日(日)「白戸さんと作ろう! 新聞紙でつくる素敵なエコバック」26名参加。「お囃子公開ワークショップ」14名、
●【ホール】おとなのためのワークショップ ハーバリウムづくり	9月8日(土)2回開催。19名参加。	—
●各種講座の実施	※前掲: (1) - ②「文化に関する講座の実施」	※前掲: (1) - ②「文化に関する講座の実施」
③文化芸術に触れる機会の少ない人へのアプローチ		(平成29年度実績)
●【ホール】アート便2018	4メニュー(落語、太神楽、音楽、ダンス×ミュージック)を提供。市立小中学校のみで実施。	4メニュー(落語、パントマイム、音楽、能)を提供。2月8日(木)新規施設として子育て支援センターで実施。58名(29組)。
●【ホール】スペインセーリングチーム事前キャンプ交流会 in 小坪小	9月19日(水)小坪小学校全児童が参加した交流会にて、太神楽 翁家勝丸氏による実演を披露。	—
●【ホール】ホールオープナー 0才からのコンサート こどもブリッツ ～小さな小さな吹奏楽～	8月5日(日)。なぎさホール、464名来場。未就学児入場可。	8月2日(日)なぎさホール、261名来場。未就学児入場可。
●【ホール】逗子文化プラザプレゼンツ ファミリーイベント ミュージカル「オズの魔法使い」	12月16日(日)。なぎさホール、520名来場。未就学児入場可。	12月17日(日)「クリスマスキッズコンサート Beat Factory パーカッションアンサンブル」なぎさホール、173名来場。未就学児入場可。
(4) 文化資源の活用による地域づくり		
①逗子の歴史的資産、伝統文化の継承と発展		(平成29年度実績)
●未指定の地域の文化遺産に関する社会教育課からの意見交換	文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成31年4月1日に施行されることを受け、未指定の有形・無形の地域文化遺産の情報収集等について、社会教育課(文化財所管)から情報提供を受け、意見交換を行った。	—
●逗子市文化協会による伝統文化教室の開催	体験学習施設スマイルでのスマイル教室に、逗子市文化協会が協力して伝統文化の教室を実施した。 和楽器(箏、尺八)(逗子三曲会、全6回)、いけばな(逗葉華道会、全4回)、茶道(はなびら会、全1回)。	—
②豊かな自然環境の活用		(平成29年度実績)
●自然の回廊プロジェクト推進事業	個別の回廊ごとに、市内印刷可能なマップを作成し、配布した。 「未病×自然の回廊ウォーキング～田越川回廊から池子の森自然公園へ～」を国保健康課と連携して実施。	「自然の回廊ウォーキング」を国保健康課「歩き方講座」と連携して実施。参加者34名。
●逗子フィルムコミッション	撮影問合せ件数126件、市内での撮影件数79件。市民エキストラ登録人数154名	撮影問合せ件数142件、市内での撮影件数57件。市民エキストラ登録人数154名。
●社会教育講座 ※前掲	10月26日(金)。「逗子の歴史と文化遺産『植生学から身近な自然をみる～長柄桜山古墳とその周辺』」参加者23名。	

③人的資源の発掘と連携		(平成 29 年度実績)
●逗子アートフェスティバル 2018 実施を目的とした、逗子アートネットワークの設立(前掲)	Facebook ページ登録者数 134 名。市内だけでなく市外、県外からもネットワークに参加し、様々な人的資源が繋がった。	逗子アートフェスティバル 2017 における逗子及び逗子近郊で活躍するローカルアーティストの企画(8 企画)
●【ホール】絵本作家山本省三さんと一緒に絵本をつくろう 2018 こどものための手作り絵本講座 ※前掲	市内絵本作家 山本省三氏を講師に迎え開催。	市内絵本作家 山本省三氏を講師に迎え開催。
●【ホール】絵本作家山本省三さんと一緒に絵本をつくろう 2018 おとなのための手作り絵本講座 ※前掲	市内絵本作家 山本省三氏を講師に迎え開催。	市内絵本作家 山本省三氏を講師に迎え開催。
—	—	市民企画「ムジチーレン in 逗子スペシャルコンサート」逗子ゆかりの奏者たちによる弦楽アンサンブルを起用したコンサート企画。
—	—	逗子アートフェスティバル 2017 ホール連携企画 まちなかアートコレクション with 逗子高校&逗子市商工会。逗子高校の絵画作品をホールギャラリー及び市内商店 44 店に展示。
(5) 文化情報の収集と活用		
①情報の収集・発信		(平成 29 年度実績)
●【ホール】ホール&ギャラリーニュースの発行	ホール独自の広報誌、年 4 回発行(110,000 部/回)。	ホール独自の広報誌、年 4 回発行(110,000 部/回)。
●【ホール】ホームページと SNS の活用	インターネットを利用した自主事業および貸館情報発信。Facebook ページの「いいね!」数は 530 件。(令和元年 7 月 1 日現在)	Facebook ページの「いいね!」数は 500 件超。前年度から 100 件増加(Facebook ページは 2011 年 8 月開設)。
●【ホール】ホールにおける情報コーナーの設置と活用	近隣他館の催し物や情報誌の配架。	近隣他館の催し物や情報誌の配架。
②情報のネットワークづくり		(平成 29 年度実績)
●共育ポータルサイト「ナニスル」の運用	講座等の情報掲載の運用を引き続き実施。参加団体数 601 件。	参加団体数 543 件。
●市民による文化事業への後援、協力 ※前掲	共催 1 件、協力 10 件、後援 15 件 合計 26 件。	共催 1 件、協力 12 件、後援 15 件 合計 28 件。
③(仮称)逗子アーカイブスの構築		(平成 29 年度実績)
●逗子市文化振興基本計画策定・推進会議における検討	2 回開催。文化活動振興事業のほか、逗子フォト事業の進捗等を確認。	2 回開催。
●逗子フォト事業	平成 29 年 12 月から運用開始。平成 31 年 2 月 1 日現在公開されている写真は 1,181 枚。	500 枚程度の写真を公開。
(6) 文化振興のための環境づくり		
①行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備		(平成 29 年度実績)
●未指定の地域の文化遺産に関する社会教育課からの意見交換 ※前掲	文化財保護法対象外の、未指定の有形・無形の地域文化遺産の情報収集等について、社会教育課(文化財所管)から情報提供を受け、意見交換を実施。	—
②施設・整備の充実など		(平成 29 年度実績)
●ホールにおける改修工事の実施	2 件実施。	3 件実施。
●ホール指定管理者に対するモニタリングの実施	毎月実施。	毎月実施。
●逗子アートフェスティバル 2018 における逗子会館及び逗子銀座コミュニティセンターの活用	逗子会館はトリエンナーレ企画「アートフォリオ展」、逗子銀座コミュニティセンターは「CITY CANVAS PROJECT」「コドモーション」で活用。	逗子会館を活用。「アートフォリオ展」ほか。
●【ホール】管理職による外部講座受講	「トラブルに発展させないクレーム対応術」(神奈川県民ホール主催)受講。	「これからのインクルーシブ社会と公共文化施設の取組み」(神奈川県民ホール主催)受講
●【ホール】認知症サポーター養成講座	9 月 4 日(火)実施。高齢介護課から講師の派遣を得て、ホール事務室常勤職員及び受付パート職員全員が受講。	—
③近隣市町との交流・連携		(平成 29 年度実績)
●【ホール】神奈川県立近代美術館葉山との連携	県立近代美術館、ホール、市の三者で協議をし、広報面での連携を図ることを確認。県立近代美術館事業のホールでのチラシ配架、広報ずしでの PR を実施した。	—

施策の柱	(1) 地域文化の担い手の育成
地域の文化は市民が継承し、創造し、発展させるものと捉え、担い手を育成するために、文化への理解・関心の向上と活動への参画を促し、地域文化振興に必要な専門知識を持った市民を増やす。特に、吸収力旺盛な青少年期における文化との接触による次世代の担い手育成を図る。	

個別計画での基本施策と平成 30 年度の取組みの結果

① 子どもたちの文化創造体験の拡充	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校教育と連携しながら、子どもたちに対する芸術に触れる機会や文化・芸術教育を充実させます。 ○ 地域において多世代との交流を通じた、地域の文化体験など、地域生活における文化接触を豊かにしていきます。 ○ ホール自主文化事業において創造体験ができる機会を充実させます。
取組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校教育と連携して行うアウトリーチは、30 年度は 21 件（授業数）1,925 名が参加し、件数、参加者数とも増加した。メニューについても、落語、音楽に加え、太神楽、ダンス×ミュージックを提供し、若者に人気のダンスを取り入れた。 ● 文化創造体験につながる逗子こども能は、参加者数 19 名と平成 29 年度より減じた。
② 市民のアートリテラシーの向上	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 逗子の伝統文化、歴史的資産はもとより、様々な文化に関する教養講座などを実施し、市民の文化に対する興味や知識を向上させます。 ○ 学ぶことと創造すること、市民協働を進めながら、生涯学習と文化振興を連携させ、幅広い視野や包容力ある人材を育みます。 ○ 団塊の世代が地域に戻り、地域文化活動に参画していけるような機会を設定していきます。
取組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 逗子アートフェスティバル 2018 は、市の緊急財政対策により財政的支援がゼロになったことで開催が危ぶまれたが、自主開催を求める市民有志等による「逗子アートネットワーク」が設立され、主体的に企画運営を行った。 ● 市民による文化活動への市後援などは、26 件となり前年度より 2 件減じた。 ● 文化に関する講座は、生涯学習講座事業（市民協働課）、各種講座事業（社会教育課）のほか、ホールでも 1 事業が開催された。
③ 地域文化振興の担い手育成	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域において、文化事業の企画や制作、運営を担ったり、専門知識や技能を発揮したり、ボランティアやサポーターで参画したり、地域文化を推進していく人材の育成に取り組みます。 ○ 青少年や若年層の活力を積極的に取り入れます。 ○ 市民、来訪者に関わらず、市内で文化活動を行う人々の参画と参加により、交流のなかで、文化活動を活性化します。
取組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 逗子アートフェスティバル 2018 では、従来の市民企画の募集は行わず、自由企画という新たなジャンルでの募集となった（6 企画）。このほか、アートフォリオ展の市民参加（全 12 作品中 6 作品）や、ボランティア活動（逗子コンシェルジュ。参加延べ 173 名）により市民の主体的な文化活動への参加を推進した。 ● 逗子アートフェスティバルから分離した逗子市文化祭は、市からの財政的支援がないなか自立的に開催され、芸能部門 7 行事、展示部門 10 行事が参加した。 ● 若手演奏家シリーズでは、春・秋 2 回の「逗子コミュニティパーク」に出演をし、地域への存在アピールをするとともに、若手演奏家の自発的な活動を促し、専門技能の発揮につながった。 ● ボランティアライターは、新たに「交流会」を実施したことで、活動に対する互いの想いや意見を共有することができた。 ● ボランティアによるホールレセプション（Re-Ce）の活動の一環として行われた Re-Ce フォローアップセミナーは、平成 29 年度に引き続き、講師を経験豊かな Re-Ce リーダー 2 名が務め、Re-Ce 全体での知識や技能のブラッシュアップを実現した。

<p>※財政対策プログラムの影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成 30 年度の緊急財政対策の事務事業の見直しに沿って、文化プラザホール指定管理料は、平成 29 年度比 1,000 千円の減額となった。 ● 同見直しの基準である「イベント・啓発事業等の予算については、原則として廃止、休止とする」に基づき、逗子アートフェスティバル負担金は休止となり、逗子アートフェスティバル 2018 開催にかかる市からの財政的支援が無かった。 ● 平成 29 年度まで逗子アートフェスティバルの傘下で開催し、負担金の一部を開催費用に充てていた逗子市文化祭についても、市からの財政的支援が無かった。
----------------------	--

<p>自己評価と見直すべき点</p>	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>【自己評価】 アウトリーチの新たなメニューである「ダンス×ミュージック」は、鑑賞系のメニューが多いなか、講師（EMPTYKRAFT）と一緒にダンスをしたり、自由に踊ったりする等、体験・創作の要素が多く、アウトリーチの新たな展開と一層の充実につながった。 逗子アートフェスティバル 2018 で、「逗子アートネットワーク」の設立によって市民参加の主体性が増大し、ボランティアやアーティスト等新たな担い手が参画する等、地域文化の担い手育成に大きく寄与した。 若手演奏家による公演やイベントへの積極的な出演は、若い文化活動の担い手育成に寄与した。</p> <p>【見直すべき点】 こども能については、ホール開館以来の事業であるが、新たな視点が求められていることも考えられ、平成 30 年度を最後として令和元年度からは別の伝統芸能体験を提供することとした。</p>
--------------------	--

<p>総合計画、基幹計画における位置づけと目標</p>	<p>【総合計画実施計画】 市として特に戦略的・重点的に取り組む「リーディング事業」に、逗子アートフェスティバルが位置付けられている。 また、目標として「2022 年度（平成 34 年度）までに、（市民）参加企画数が 30 企画になっており、質の向上が図られている。」としている。</p> <p>【基幹計画】 共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン <文化振興事業> 平成 29 年度における主な事業として「逗子アートフェスティバルを開催する（トリエンナーレ方式による開催）」としている。 また、目標として「平成 30 年度までに、逗子アートフェスティバルの（市民）参加企画数が 28 企画になっており、質の向上が図られている。」としている。</p> <p><生涯学習講座事業> 平成 29 年度における主な事業として「生涯学習の各種講座を開設する。ずし楽習塾を開設する」としている。 また、目標として「平成 30 年度までに、生涯学習の各種講座が、115 講座開設されている」としている。</p>
-----------------------------	--

委員会の評価	a. 順調である。b. 概ね順調である。c. 順調であるとみなせない。
	<p>市の緊急財政対策に伴う事業予算のカットや休止にもかかわらず、地域文化の担い手育成は着実に推進した。</p> <p>指定管理料が減額された文化プラザホールにおいては、新メニューの追加等によりアウトリーチの一層の充実を図り、若手演奏家の出演によりコミュニティパークとの連携を拡大した。負担金が休止された逗子アートフェスティバル2018においては、市民有志等による「逗子アートネットワーク」が設立され、ボランティアやアーティストの参加者も増え、市民がより主体になって運営に取り組んだ。財政的支援がない中、逗子市文化祭が自立的に開催されたことは、市民の創作意欲や鑑賞行動への欲求の高さを窺わせるもので、当市全体の文化度向上のため、また市民自身が豊かで充実した暮らしを送るためにも、文化祭の継続を可能にさせる環境が整うことが望ましい。</p> <p>これらは、地域文化の拠点であるホール指定管理者の努力や、文化活動に携わる市民の力の高まりや積極性、意識の高さの表れといえる。市は、このような活動を財政面も含めた様々な形で支えて、地域文化の更なる発展と市全体の文化度の向上を図ることが重要である。</p>

施策の柱	(2) 市民文化活動の活性化
市民の文化活動は、心の豊かさや充足感を得るだけでなく、活力に満ちた社会や個性豊かな地域の形成など、様々な形で地域などにも還元されるものと捉え、市民個人や団体それぞれの活動を高め、上げるとともに、文化を通じた公益的な市民活動の支援を図る。	

個別計画での基本施策と平成 30 年度の事業概要

① 市民文化活動への支援の拡充	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民に文化活動のための場と機会（時間）を提供し、市民と行政の役割を明確にした上で、市民文化活動の活性化のための協働を進めます。 ○ 文化活動をしていく上での相談や助言を行う仕組みや、支援や協働による活動の実現や拡大につながる仕組みを整えていきます。 ○ 文化事業の企画運営について、市民が専門的知識や技術の習得が可能となるよう支援します。 ○ 活動の目標や励みになる事業及び専門性をより高めていくための機会を設けるなど、支援を行います。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 舞台技術体験講座では、3回連続講座のなかで舞台全般に関わる知識のほか、音響をメインに学び、自主文化事業「ZUSHI パフォーマーズフェスタ」で舞台運営をホールスタッフとともに行っていただいたが、参加者は1名であった。 ● 手づくり絵本講座（中学生以上対象）は、大人向けの内容で全3回行われた。参加者は、講師のさまざまな事例を交えた説明を聞き、相談しながら創作に取り組んだ。最終回では、完成した絵本の発表をする場を新たに設け、参加者同士の交流につながった。 ● 過去の手づくり絵本講座参加者が、第20回「創作童話・絵本・デジタル絵本コンテスト」（主催：NPO 法人キッズエクスプレス 21 実行委員会）キッズエクスプレス 21 大賞を受賞した。
② 市民による市民のための文化振興の仕組みづくり	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 個人や既存の団体との連携を図りながら、プラットフォームとなる中間支援組織の育成や、文化 NPO の支援などにも取り組みます。 ○ 市民自らが企画・参加し、地域文化を振興し、地域を活性化していく仕組みづくりを進めます。 ○ 世代間交流ができるような文化事業を実施します。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 逗子アートフェスティバルの企画運営を行う団体として、有志による逗子アートネットワークが設立し、130人を超えるメンバーが参加した。組織運営においてもフラットな関係を重視し、出席者全員の合意でコンセプトや方向性を決定した。全員ミーティングは全13回と、ほぼ毎月1回のペースで行ったほか、主要メンバーによるミーティングも別に全12回行った。 ● 逗子アートフェスティバル 2018 の財源確保においては、クラウドファンディングを実施し、目標額 200 万円のところ 207 万円が集まり、広く支援の輪を広げた。
③ 市民参画・協働型事業の充実	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事業の企画案、運営スタッフの市民公募などにより、市民参画・参加を促進します。 ○ 市民の企画力、運営力をより一層高めていく支援を行います。 ○ 市民主導型のホール自主文化事業を積極的に実施し、事業の充実を図ります。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 逗子アートフェスティバル 2018 は、25 年度（2013 年）のプレアートフェスティバル以降 6 回目となった。 ● 「市民企画事業」では、3 件の公演を実施した。 ● ホールレセプション（Re-Ce）活動では、22 名の参加者が主に自主文化事業にレセプションとして参加し、その技術を磨いている。 ● 第 3 回トモイクフェスティバルでは、ホールは共催者として、「世界でいちばんのイチゴミルクのつくり方」の上映をイベントとして行い、当日は会場及び舞台技術を提供するほか、逗子アートフェスティバル 2018 から派生した企画「アートを通して、みんなで作る・暮らすプロジェクト ごみ→アート→ぼくのもの ワークショップ」への会場提供により協力した。

<p>※財政対策プログラムの影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成 30 年度の緊急財政対策の事務事業の見直しに沿って、文化プラザホール指定管理料は、平成 29 年度比 1,000 千円の減額となった。 ● 同見直しの基準である「イベント・啓発事業等の予算については、原則として廃止、休止とする」に基づき、逗子アートフェスティバル負担金は休止となり、逗子アートフェスティバル 2018 開催にかかる市からの財政的支援が無かった。
----------------------	--

<p>自己評価と見直すべき点</p>	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p>	
	<p>【自己評価】 逗子アートフェスティバルにおける「逗子アートネットワーク」の設立と企画運営は、「市民による市民のための文化振興の仕組みづくり」を実践する動きとなった。「手作り絵本講座」や「Re-Ce 活動」の継続事業については、参加者に高い評価をいただいている。「手作り絵本講座」では、参加者同士の交流にもつながる発表会を新たに開催した。また過去の受講者から絵本コンクール入賞の連絡があり、受講経験が文化活動に活かされた事例となった。「Re-Ce 活動」では、ホールと市民をつなぐ役割として積極的な活動が行われた。</p> <hr/> <p>【見直すべき点】 市民企画事業については、ホールの市民（企画者）に対するバックアップ体制が十分でない。具体的なアドバイスや広報面での支援等、ホールとしてどのように企画に関わるか、見直す必要がある。 市民文化活動を支援するためのホールの講座は、平成 29 年度（イベント企画支援講座）に続き募集人数を大きく割り込む参加者数となった。文化活動を行う市民が、ホールの利用に際しどのような知識や学びを求めているか、広報の仕方が適当か等、大幅に見直す必要がある。</p>	

<p>委員会の評価</p>	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p>	
	<p>逗子アートフェスティバル 2018 における「逗子アートネットワーク」の活発かつ積極的な活動は、これからの逗子アートフェスティバルの展開の基盤になるものと期待され、評価できる。今後は、自由企画やアートフォリオ展等、市民参加の仕組みについて市民の認知を高めることが課題である。 ホールにおいては、「手作り絵本講座」の過去の参加者が絵本コンクールで受賞したことは、事業の成果の一つとして挙げられる。一方、市民企画事業や市民文化活動支援のための講座については、市民のニーズの把握が必要であるとともに、広報のあり方や対象者の見直しも検討が求められている。</p>	

施策の柱	(3) 文化芸術に接する機会の拡充
<p>条例で定める、文化芸術を創造し、享受することは市民の権利であることを実現するため、すべての市民が文化芸術に触れることのできる機会を提供するように努める。特に、文化事業を企画したり、運営に参画したり、支援する機会や、文化芸術に触れることが困難な市民が気軽に接する機会の拡充を図る。</p>	

個別計画での基本施策と平成 30 年度の事業概要	
① 鑑賞機会の拡充	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市民ニーズにあった多彩な鑑賞型事業を実施します。 ○ 市民の企画による事業を募集、協働にて実施します。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 全 11 件のうち、入場者数 500 名を超えた公演は 3 件であった。 6 月 24 日(日)「栗コーダーカルテット ふぁみりーコンサート」511 名 12 月 16 日(日)「ミュージカル<オズの魔法使い>」520 名 1 月 19 日(土)「キョヅカランド」53 名 上記の公演アンケート結果は満足度 86.8%となった。 ● 出演者都合による公演中止が 1 件(12 月 1 日(土)「なぎさジャズコレクション山下洋輔」)があったほか、入場率が低迷した事業が 2 件(11 月 25 日(日)「ウェールズ弦楽四重奏団」定員に対して 43.4%、2 月 9 日(土)熊本マリ&溝口肇～音で旅するコンサート～同 58.0%)であった。 ● 全 11 件のジャンル別内訳は、音楽関係 5、伝統文化・古典芸能 4、演劇・ミュージカル 1、ダンス 1。
② 体験や参加、参画機会の充実	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホールにおいて、鑑賞型事業の実施に合わせ、そのテーマに沿った各種講座やワークショップを実施します。 ○ 市内公共施設などにおいて、各種講座事業を実施します。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 逗子アートフェスティバル 2018 連携企画「ゴローさんとホールに描くオーバークラスドローイング!」は、ホールオープンデーから逗子アートフェスティバル 2018 会期までの間、5 回にわたり実施した。逗子アートフェスティバル 2018 のメインビジュアルを描いたアーティスト・ゴローさんと共に、ホール 1 階のガラス壁に絵を描くもので、まちや市民との一体感を醸し出す事業となった。 ● ホールオープンデーでは「ホールのお仕事を体験! こどもレセ体験」、「草でつくるオリジナルキーホルダー」、「やってみよう! 見てみよう! 1 日館長体験♪」の 3 つのワークショップを開催し、小学生を中心に実際に体験をしながらホールについて学べる場を提供できた。また「こどもチンドン屋さん」は、文化プラザ全体の一体感とにぎやかなお祭りムードを創出した。
③ 文化芸術に触れる機会の少ない人へのアプローチ	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自主文化事業の内容に合わせて対象や方法を工夫しながら、PR 活動を行います。 ○ 自主文化事業の実施場所をホールに限定せず、積極的にアウトリーチ事業として実施することにより、ホールに来館できない方へも文化・芸術を広めていきます。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● アウトリーチ(アート便 2018)では 4 メニュー(落語、太神楽、音楽、ダンス×ミュージック)を提供した。新規メニューの太神楽は、以前実施しリクエストがあがっていたものを取り上げた。ダンス×ミュージックは、継続してホール公演を行い、認知度を高めてきた EMPTYKRAFT を講師とし、最新の若い音楽シーンで活躍するアーティストに触れる機会を提供し、アート便参加から観客としてのホールを訪れる、という人の流れも一部に見られた。 ● 「ミュージカル<オズの魔法使い>」は、初のミュージカル公演であり、保育園や幼稚園へのチラシ送付や他館挟み込み等積極的な広報活動を行い、公演当日もホワイエの装飾や写真ブースを設ける等雰囲気作りを行った。

<p>※財政対策プログラムの影響</p>	<p>● 平成 30 年度の緊急財政対策の事務事業の見直しに沿って、文化プラザホール指定管理料は、平成 29 年度比 1,000 千円の減額となった。このことを受けて、アウトリーチについては、市立小中学校以外の福祉施設等への活動を実施しなかった。</p>
----------------------	---

<p>自己評価と見直すべき点</p>	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>【自己評価】 ホールでの逗子アートフェスティバル 2018 連携企画やホールオープンデーのワークショップ等、市民参加型の企画が増え、体験や参加、参画機会の充実に寄与した。特に、体験型のワークショップを増やすことで、ホールに気軽に足を運べるきっかけを作った。自主文化事業「ミュージカル<オズの魔法使い>」で、小さい子どものいるファミリー層というターゲットを捉えた広報活動や、当日の会場の雰囲気作り等に取り組む等事業全般のマネジメントが効果的に働いたことが、500 人を超える入場者につながった。アウトリーチは、若い方に親しみやすいメニューを取り入れるとともに、講師が出演するホール公演への来場につなげ、若い方のホール来館を促すことができた。</p> <p>【見直すべき点】 入場率の低かった 2 公演について、同じ出演者の公演が近隣ホールで近い時期に開催されたため、チケット販売が分散したこと、ホールが提供する「正統派クラシック公演」と、市民の求める「正統派クラシック公演」のイメージに違いがあったこと、の 2 点が入場率低迷の原因と考える。特に「熊本マリ&溝口肇」については、メディア等への露出も高く、プログラムも比較的誰にも聞きやすいものを用意していたので、そのような部分を積極的に広報する等、一層の戦略的な広報活動が必要である。 子ども関連以外へのアウトリーチを実施しなかったことについては、財政状況に関わらずできることはないか検討するとともに、将来的な再開に向けて、対象となる施設と調整を継続していく。</p>
--------------------	--

<p>総合計画、基幹計画における位置づけと目標</p>	<p>【総合計画実施計画】 目標として「2022 年度（平成 34 年度）までに、文化プラザホールにおいて、質の高い自主文化事業が実施され、ホール自主事業の入場者アンケートの満足度が 90 パーセントを超えている。文化プラザホールの入場者（観客）が年 10 万人以上になっている。」としている。</p> <p>【基幹計画】 共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン 平成 29 年度における主な事業として「逗子文化プラザホール指定管理者によるアウトリーチ事業を実施する。」としている。 また、目標として「平成 30 年度までに、アウトリーチ事業の提供メニューが多様化し、6 メニューになっている。」としている。</p>
-----------------------------	---

委員会の評価	a. 順調である。b. 概ね順調である。c. 順調であるとみなせない。
	<p>鑑賞型事業については、多彩なプログラムを実施しており評価できる。クラシック公演については、ホールとして重要な事業であるので、広報や解説を工夫する等入場率の向上に努めてほしい。</p> <p>体験・参加型の事業を増やしたことについては、参加者に多様な文化芸術活動に接する機会と場が提供できた。今後は、本計画の目標に「ホールに来館できない方へも文化・芸術を広めていく」ことを掲げていることから、引き続き、新規メニューの開発と提供に期待したい。</p> <p>アウトリーチ活動については、緊急財政対策の影響による制約の中でも継続したことは評価できるが、高齢者や障がいのある方等にもアプローチできるよう、福祉施設等に対する活動の継続が望まれる。</p> <p>また、事業に影響するような指定管理料の減額については、今後改善するように、市は検討してほしい。</p>

施策の柱	(4) 文化資源の活用による地域づくり
市内に存在する様々な歴史的資産や伝統文化、青い海や緑豊かな自然環境といった環境、逗子ゆかりの作家や芸術家、各分野の専門性や学識経験を持った市民をはじめとする全ての市民を逗子の文化資源と捉え、逗子の持つ文化の力を発揮して、個性と活力ある地域づくりを進めていく。	

個別計画での基本施策と平成 30 年度の事業概要	
① 逗子の歴史的資産、伝統文化の継承と発展	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 市内に残る伝統文化などの継承を支援します。 ○ 継承すべき文化の中から、どのように継承するかなど、協働により検証していきます。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成 31 年 4 月 1 日に施行されることを受け、未指定の有形・無形の地域文化遺産の情報収集等について、社会教育課（文化財所管）から情報提供を受け、意見交換を行った。 ● 逗子市文化協会が、体験学習施設スマイルの子ども文化芸術教室（スマイル教室）を受託して伝統文化の教室を実施した。これまで会員の中で完結することが多かったが、多世代交流につながる活動となった。
② 豊かな自然環境の活用	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 逗子の自然環境についての学習・保全・啓発につながる文化活動を推進します。 ○ 様々な映像作品のロケ地として利用される逗子を、より一層発信していくため、フィルムコミッション事業やロケ地観光などを促進していきます。 ○ 自然環境を活かした文化活動を推進します。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 「自然の回廊プロジェクト推進事業」は、緊急財政対策により事業休止となったが、回廊全体のマップを補完する、個別の回廊ごとの庁内印刷可能なマップを作成し、配布した。また、国保健康課と経済観光課が「未病×自然の回廊ウォーキング～田越川回廊から池子の森自然公園へ～」を実施した。 ● 「逗子フィルムコミッション」は、撮影問い合わせ対等を引き続き実施した。TV 番組や CM の他、ウェブ番組やウェブ CM 等の撮影があった。
③ 人的資源の発掘と連携	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地域に根ざした様々な分野のアーティストや専門家を発掘します。 ○ 様々な人的資源をつなぐネットワークづくりを進めます。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 逗子アートフェスティバル 2018 実施を目的とした「逗子アートネットワーク」が設立され、市内だけでなく市外、県外からも参加者があり、様々な人的資源のつながりを生んだ。 ● 手づくり絵本講座は、逗子在住の絵本作家山本省三氏が講師を務めた。山本氏には、手づくり絵本講座の前身である手づくり絵本コンクールの初回（16 年度）から関わっていただいている。

<p>※財政対策プログラムの影響</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 平成 30 年度の緊急財政対策の事務事業の見直しに沿って、自然の回廊プロジェクト推進事業は事業休止となった。 ● 同見直しの基準である「イベント・啓発事業等の予算については、原則として廃止、休止とする」に基づき、逗子アートフェスティバル負担金は休止となり、逗子アートフェスティバル 2018 開催にかかる市からの財政的支援が無かった。
----------------------	--

<p>自己評価と見直すべき点</p>	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>【自己評価】 逗子市文化協会の子ども文化芸術教室の受託は、外部に活動を周知することにもつながった。 逗子アートフェスティバル 2018 での逗子アートネットワークの設立は、市外や県外の方と市民、最近引っ越してきた市民と以前からの市民といった、新たな人的資源のネットワークを生み出した。アートフェスティバル後にもつながりや経験を別の活動に活かす、という動きも見られた。</p> <p>【見直すべき点】 逗子の歴史的資産、伝統文化の継承と発展については、文化財の範疇では保護等の対象となっていない地域の文化資産について、関係課で初めて協議を行い、将来的な課題を共有することができたが、具体的な取組みには至っていないので、引き続き課題の共有に努めていく。 逗子市文化協会に対しては、会員の高齢化が著しい等から、同会が文化活動を継続していくための支援が必要である。</p>
--------------------	---

<p>総合計画、基幹計画における位置づけと目標</p>	<p>【総合計画実施計画】 市として特に戦略的・重点的に取り組む「リーディング事業」に、自然の回廊プロジェクトが位置付けられている。 また、目標として「2022 年度（平成 34 年度）までに、道標や説明板の設置済みコースが 100%となっている」としている。</p>
-----------------------------	---

<p>委員会の評価</p>	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>逗子には、中世及び近代の多様な歴史的・文化的遺産、海・山・川といった豊かな自然環境、多彩な人的資源があるが、まだ十分に活かしきっていないように見受けられる。 逗子アートフェスティバルを開催するにあたり「逗子アートネットワーク」の設立と活動や、逗子市文化協会の子ども文化芸術教室の受託等により、新たな人的資源の発掘、連携を行えたことは評価できるが、市内に存在する様々な資産を今後活用していくためには、市の関係部署や市民文化団体や NPO 等との連携、協議をもっと強化する具体的な取組みが必要である。 また、取組みに当たっては、従来の縦割りの発想ではなく、関係部署間で横断的に協力、協議、実行できる、組織からの改革が望ましい。</p>
---------------	--

施策の柱	(5) 文化情報の収集と活用
<p>情報による文化の活性化を目指し、市民だれでもが容易に市内・市外の文化情報を手に入れることができるような情報流通の仕組みを構築し、新しい情報メディアへの対応を図る。また、逗子の文化資源に関する情報として、文字情報だけでなく映像や音源などを集積して、活用できる仕組みを検討する。</p>	

個別計画での基本施策と平成 30 年度の事業概要	
① 情報の収集・発信	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他市の文化施設での催しなどの情報をホール及び市民交流センターでも手軽に取得できるよう情報の収集に努めます。 ○ 各メディアに積極的に情報発信を行います。 ○ 新しいメディアを活用した情報提供の検討を行います。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 年間4回、各 11 万部のホール&ギャラリーニュースを発行した。催事情報のほか「Close Up」として、出演者のインタビュー記事を掲載するスペースを設け、読者により興味を持ってもらえるような紙面づくりに注力した。 ● ホール自主事業について、広報ずし・子育てわくわくメールマガジン・ポータルサイト「えがお」(市)のほか、マグカルカレンダー(県情報誌)、イベントバンク(情報配信サイト)からも情報発信を行った。 ● ホールに近隣他館の催し物や情報誌を配架した。 ● 市役所のホール用ラック、市内掲示板、PR-BOX、交流センターラックの活用で情報発信をした。
② 情報のネットワークづくり	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際的な文化交流なども視野に入れ、近隣市町などの公共ホール、劇場、美術館、アートイベントなどとの連携を模索します。 ○ 市内の文化活動団体の交流支援をしていきます。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 共有ポータルサイト「ナニスル」を引き続き運用した。30 年度末現在参加団体数 601 件(29 年度末 543 件)。
③ (仮称) 逗子アーカイブスの構築	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 点在する文化資源情報の収集・整理を進めるための基盤づくり(収集・整理に必要な知識や情報の蓄積など)を、市民と協働で行います。 ○ 文化資源情報の収集・整理の方法について検討します。 ○ 文化資源情報を整理し、将来的にはデジタル化、アーカイブ化により、市民が活用しやすい環境づくりにつなげます。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● (仮称) 逗子アーカイブスは、逗子市文化振興基本計画策定・推進会議で検討し、平成 29 年 12 月から運用の逗子フォト事業(所管課：企画課)と、将来的に連動する形で、引き続き検討していくこととした。 ● 逗子フォト事業の写真公開枚数は、平成 31 年 2 月 1 日現在で 1,181 枚となった。

※財政対策プログラムの影響	● 平成 30 年度の緊急財政対策の事務事業の見直しに沿って、文化プラザホール指定管理料は、平成 29 年度比 1,000 千円の減額となった。
---------------	--

自己評価と見直すべき点	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	<p>【自己評価】 ホール自主文化事業の既存の広報については、誌面の拡大や内容の充実等改善が図れた。共育ポータルサイト「ナニスル」を引き続き運用し情報のネットワークを構築している。逗子フォト事業は、公開する写真の枚数が順調に増えている。</p> <p>【見直すべき点】 ホール自主文化事業の、ホームページや SNS を活用した発信の拡大がまだ十分でないので、今後改善をしていく。 「(仮称) 逗子アーカイブス」は、逗子フォト事業との将来的な連動という方向性ではあるが、目的や手法についての課題整理等については未着手であるので、社会教育課・図書館等関係所管課での協議・調整を行う必要がある。</p>

総合計画、基幹計画における位置づけと目標	<p>【総合計画実施計画】 市として特に戦略的・重点的に取り組む「リーディング事業」に、共育ネットワーク構築事業が位置付けられている。 また、目標として「2022 年度（平成 34 年度）までに、子どもを対象にした『共育』の講座に参加する子どもが年間延べ 2,000 人になっている」「『共育』に関するポータルサイトに参加している団体が 200 団体になっている」「生涯学習グループ・サークルの届出（登録）が 250 件になっている」「生涯学習関連情報の窓口が一本化されている」としている。</p> <p>【基幹計画】共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン ＜共育ネットワーク構築事業＞ 平成 29 年度における主な事業として「共育ネットワークシステムを構築、運営する」「子ども対象の学習メニューを検討する」としている。 また、目標として「平成 30 年度までに、『共育』に関する講座等の情報を一括するシステムが運用されている」としている。</p>
----------------------	--

委員会の評価	<p>a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。</p> <p>市民がいつでも容易に市内、近隣の文化情報を収集、活用できる環境を整備することは、充実した豊かな暮らしを望む市民へのサービスとして重要である。紙媒体による情報発信、ポータルサイトを使った情報ネットワークの構築等による情報発信等の取組みは順調に行われているが、東京 2020 オリンピック・パラリンピックを控え、市外からの来訪者が増えてくる中で、外国人を含む外向けの情報発信は遅れており、今後の課題である。</p> <p>また、「(仮称) 逗子アーカイブス」は、地域の文化資源、特に埋もれた文化資源を収集、整理することを目指しており、地域文化の発信のベースとなり得る重要な歴史・文化活動である。「逗子フォト事業」との連動に伴う課題も将来的には予想されることから、今後は、関係部署が緊密に連携、協働し、事業の目的や方法等についてスピード感をもって検討するとともに、民間との協働や図書館、博物館等の施設の拡充も視野に入れた将来構想の確立と、具体的な取組みの推進が求められる。</p>
--------	--

施策の柱	(6) 文化振興のための環境づくり
近隣市町などとの連携を視野に入れ、行政における推進体制の整備を行うとともに、ホールをはじめとする既存の施設の維持管理に努め、市民による自主的かつ主体的な文化活動が行える環境づくりを目指す。	

個別計画での基本施策と平成 29 年度の事業概要	
① 行政の文化振興体制の明確化と連携体制の整備	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化振興所管課を中心として、関係部署との協力・連携を強化します。 ○ 文化を軸とした、行政の一体的、組織横断的な推進体制の確立を目指します。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 文化財保護法及び地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律が平成 31 年 4 月 1 日に施行されることを受け、未指定の有形・無形の地域文化遺産の情報収集等について、社会教育課（文化財所管）から情報提供を受け、意見交換を行った。
② 施設・設備の充実など	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ ホールの管理運営について、多くの市民の意見を取り入れながら、改善を図ります。 ○ バリアフリーやユニバーサルデザインなど、誰もが利用しやすい環境づくりのため、施設や設備の計画的な修繕・改修に努めます。 ○ まちなかに点在する空きスペースや休眠中の市の施設などの情報収集・発信に努めます。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● ホールの平成 30 年度の貸館利用者満足度は「とても満足」「満足」を合わせて 92.9%であった。 ● ホールの中長期的改修計画に基づく工事を優先順位の高いものから 2 件実施した。 ● ホール指定管理者に対するモニタリングを毎月実施した。 ● 逗子アートフェスティバル 2018 の企画「アートフォリオ展」及び全体ミーティングで、市の未使用公共施設である逗子会館を、「CITY CANBAS PROJECT」「コドモーション」では、市が貸与する逗子銀座通り商店街の施設・逗子銀座コミュニティセンターを使用した。 ● 昨年度に引き続き、ホール管理職職員がインクルーシブ社会と公立文化施設の取り組みに関する外部講座を、ホール全職員が市の高齢介護課の講師派遣による「認知症サポーター養成講座」を受講した。受講の結果は、ホール内各所への筆談ボードの設置等、障がいのある方への具体的な接遇向上につながる取り組みにつなげた。
③ 近隣市町との交流・連携	
目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文化プラザが地域の文化活動、創造的活動の拠点となり、他の近隣市町との交流・連携を進めます。
取り組みの結果	<ul style="list-style-type: none"> ● 神奈川県立近代美術館葉山、ホール、市の 3 者で協議をし、広報面での連携を図ることを確認し、県立近代美術館事業のホールでのチラシ配架や、広報ずし（8月号「国立民族学博物館コレクション 貝の道」）での PR を実施した。

※財政対策プログラムの影響	● 平成 30 年度の緊急財政対策の事務事業の見直しに沿って、文化プラザホール指定管理料は、平成 29 年度比 1,000 千円の減額となった。
---------------	--

自己評価と見直すべき点	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	<p>【自己評価】 連携体制の整備については、地域の文化資産について社会教育課と文化スポーツ課が意見交換により課題の共有をしたことは、計画の求める一体的な動きではないが、個別の事業に対して組織横断的に取り組む第一歩につながった。引き続き連携や情報共有を進めていく。 ホール運営については、貸館利用者満足度は高水準を維持した。また、障がい者対応に向けて知識の習得をホール管理者が行い、施設のバリアフリー化に努めた。 神奈川県立近代美術館葉山との連携は初の試みであった。今後事例を増やし、連携を相互の事業に活かす方法を模索していく。</p> <hr/> <p>【見直すべき点】 ホールの維持管理については、市の厳しい財政状況に伴い、中長期的改修計画通りの予算措置は困難であり、優先順位の高い工事の一層の精査に努め実施していく。</p>

総合計画、基幹計画における位置づけと目標	<p>【総合計画実施計画】 目標として「2022 年度（平成 34 年度）までに、ホール貸館利用者アンケートによる満足度で「良い」が 75 パーセントになっている。」としている。</p> <p>【基幹計画】共に学び、共に育つ、共育（きょういく）のまち推進プラン 平成 29 年度における主な事業として「中長期的改修計画に基づいた施設の改修修繕を実施する。」としている。 また、目標として「平成 30 年度までに、中長期計画に基づいた施設の改修工事を実施する。」としている。</p>
----------------------	---

委員会の評価	a. 順調である。 b. 概ね順調である。 c. 順調であるとみなせない。
	<p>逗子アートフェスティバルでの市の未使用公共施設等の活用は、今後の市民活動にヒントを与えるものとして評価できる。県立近代美術館葉山との広報面での連携についても評価でき、今後の展開に期待できる。</p> <p>一方、市としての文化振興政策の明確化と、実現のための関係部署との協力・連携体制の構築が重要であるが、庁内の会議での情報交換等部分的な実施に留まっているように見受けられる。今後は、改正文化芸術基本法が求める、組織横断的かつ継続的な体制づくりが望まれる。</p>

参考資料

1. 逗子文化プラザホール 平成30年度自主文化事業一覧

	事業名	開催形式	実施日時	発売月日	会場	対象／定員	チケット料金	入場者数(入場率)	備考
トモイク	駅前寄席in逗子文化プラザホール	提携(共催)	4月25日(水) 13:00開演	2月28日(水) 応募締切	なぎさホール	逗子在住 65才以上 ／500名	無料	434名 (86.8%)	*主催: NPO法人逗子葉山鎌倉駅前寄席 *往復はがきにて申込み(当日消印有効) 応募者多数の場合は抽選
まちづくり	ZUSHI COMMUNITY PARK GARDEN CAFE KAMEGAOKA 2018 SPRING との連携 若手演奏家の出演	—	5月20日(日) 12:00出演	-	亀岡八幡宮	どなたでも	無料	-	*主催:逗子コミュニティパーク実行委員会 *出演名称:ごきげんようカルテット (若手演奏家シリーズ #7 出演者)
鑑賞	栗コーダーカルテット ふぁみりーコンサート	主催	6月24日(日) 14:00開演	4月8日(日)	なぎさホール	どなたでも ／532名	全席指定 おとな(中学生以上)1,500円 こども(小学生以下)500円	511名 (96.1%)	*0才からチケット必要
トモイク	市民企画事業／創造支援企画 音楽のまちづくり・街角おんがく会	共催	6月30日(土) 13:00開演	4月1日(日)	さざなみホール	一般/ 120名	全席自由 1,500円	140名 (116.7%)	*主催:逗子サロンコンサート(松本はるこ) *未就学児入場不可
地域資源	若手演奏家シリーズ #7 弦の響きー弦楽四重奏×ピアノー	主催	7月14日(土) 14:00開演	4月8日(日)	さざなみホール	一般/ 110名	全席自由 1,000円	142名 (129.1%)	*未就学児入場不可
鑑賞	EMPTY KRAFT Special LIVE @逗子文化プラザホール	主催	7月21日(土) 14:00開演	4月29日(日)	さざなみホール	どなたでも ／120名	全席自由 1,500円	140名 (116.7%)	*未就学児無料(要整理券、先着15名) 定員120名には含まず
鑑賞	ホールオープナー 0才からのコンサート こどもブリッツ～小さな小さな吹奏楽～	主催	8月5日(日) 11:00開演	4月29日(日)	なぎさホール	どなたでも ／558名	全席指定 おとな(中学生以上)1,000円 こども(小学生以下)500円	464名 (83.2%)	*0才からチケット必要
まちづくり	ホールオープナー(WS) ホールのお仕事を体験! こどもレセ体験		8月5日(日) 9:45～10:50	7月1日(日) 申込開始	なぎさホール	小中学生 ／5名	無料	8名 (160.0%)	*「0才からのコンサート」 鑑賞チケット付
トモイク	ホールオープナー(WS) 革でつくるオリジナルキーホルダー		8月5日(日) ①12:15 ②13:45 ③15:15	6月3日(日) 申込開始	ギャラリー	どなたでも ／各回15名 ×3回	800円	①14名(93.3%) ②11名(73.3%) ③12名(80.0%)	*小学2年生までは保護者同伴
トモイク	ホールオープナー 人形劇 「ピヨピヨさんぽ」と「ぶたぶたこぶた」		8月5日(日) 14:00開演	4月29日(日)	さざなみホール	どなたでも ／100名	全席自由 800円	106名 (106.0%)	*0才からチケット必要 *ワークショップ付き 「靴下でヘビをつくって、あそぶ」

	事業名	開催形式	実施日時	発売月日	会場	対象／定員	チケット料金	入場者数 (入場率)	備考
まちづくり	ホールオープナー(WS) やってみよう！見てみよう！ 1日館長体験♪	主催	8月5日(日) 13:00～15:30	7月1日(日) 申込開始	さざなみ ホール	小中学生 ／5名	無料	8名 (160.0%)	*「人形劇『ピヨピヨさんぽ』と『ぶたぶたこぶた』」 鑑賞チケット付
まちづくり	ホールオープナー 手づくり絵本のミニ展覧会		8月5日(日) 12:00～17:00	-	なぎさホール ホワイエ	どなたでも	無料	-	*「0才からのコンサート」のチケットを お持ちのお客様は公演開場時にも 観覧可
まちづくり	ホールオープナー こどもチンドン屋さん		8月5日(日) 10:00～14:30	当日受付	ギャラリー前	どなたでも ／各回10名 ×3回	参加費 500円	27名 (90.0%)	
まちづくり	おとなのためのワークショップ ハーバリウムづくり	主催	9月8日(土) ①10:30 ②13:30	7月8日(日) 申込開始	ギャラリー	中学生以上／各回10 名	参加費 1,000円	①10名 (100.0%) ②9名 (90.0%)	
地域資源	NiM2 Live in 逗子文化プラザなぎさホール ～ONE HEART, ONE ZUSHI～	主催	9月30日(日) 14:00開演	6月17日(日)	なぎさホール	どなたでも ／532名	全席指定 一般1,500円 中学生800円 小学生以下 500円	235名 (44.2%)	*0才からチケット必要 *ゲスト: 東風平高根
鑑賞	さざなみ亭落語会 三遊亭わん丈 &みんなで創る落語会其の二	主催	10月6日(土) 14:00開演	7月8日(日)	さざなみ ホール	一般 ／100名	全席自由 1,500円	86名 (86.0%)	*未就学児入場不可 *事前投票にて演目決定
地域資源	ZUSHIパフォーマーズフェスタ Vol.4	主催	10月20日(土) 14:00開演	9月2日(日)	さざなみ ホール	どなたでも ／120名	全席自由 500円	104名 (86.7%)	*0才からチケット必要 *4組出演(応募14件)
鑑賞	ウェールズ弦楽四重奏団 ー弦楽四重奏の名曲を聴くー	主催	11月25日(日) 14:00開演	8月26日(日)	なぎさホール	一般 ／558名	全席指定 一般2,500円 高校生 以下1,000円	242名 (43.4%)	*未就学児入場不可
地域資源	なぎさプラスソリストコンサート 第14回	主催	11月27日(火) 19:00開演	8月26日(日)	なぎさホール	一般 ／552名	全席指定 一般4,000円 高校生2,500円 小中学生1,000円	396名 (71.5%)	*未就学児入場不可
鑑賞	なぎさジャズコレクション 山下洋輔JAZZ Live	主催	12月2日(日) 15:00開演	9月2日(日)	なぎさホール	一般 ／532名	全席指定 3,500円	中止	*未就学児入場不可 公演中止・・・出演者怪我のため
鑑賞	逗子文化プラザホールプレゼンツ ファミリーイベント ミュージカル「オズの魔法使い」	主催	12月16日(日) 14:00開演	9月2日(日)	なぎさホール	一般 ／558名	全席指定 おとな(中学生 以上)1,500円 子ども(小学生 以下)500円	520名 (93.2%)	*0才からチケット必要
鑑賞	キョツカランド	主催	2019年 1月19日(土) 14:00開演	10月14日(日)	なぎさホール	一般 ／558名	全席指定 一般4,000円 高校生 以下1,500円	533名 (95.5%)	*清塚信也、高井羅人による ピアノデュオ *未就学児入場不可

	事業名	開催形式	実施日時	発売月日	会場	対象／定員	チケット料金	入場者数(入場率)	備考
トモイク	市民企画事業/創造支援企画 コンチェルト・カメラローズ スペシャルコンサート	共催	2019年 1月13日(日) 14:00開演	11月1日(木)	なぎさホール	一般 ／558名	全席自由 一般3,000円 大学生 以下2,000円 親子ペア4,000円	140名 (25.1%)	*未就学児入場は主催者問合せ
鑑賞	逗子落語会 林家たい平・立川談笑 二人会	主催	2019年 2月2日(土) 18:00開演	10月28日(日)	なぎさホール	一般 ／558名	全席指定 一般3,500円 高校生 以下2,000円	481名 (86.2%)	*未就学児入場不可
鑑賞	熊本マリ&溝口肇 ～音で旅するコンサート～	主催	2019年 2月9日(土) 14:00開演	11月4日(日)	なぎさホール	一般 ／558名	全席指定 3,500円	324名 (58.0%)	*未就学児入場不可
鑑賞	能楽事前講座	主催	2019年 ①2月15日(金) ②2月22日(金) 各講座10:30 開講	11月4日(日)	さざなみ ホール	一般/ ①50名 ②50名	全席自由 1,500円	①19名 (38.0%) ②17名 (34.0%)	*未就学児入場不可
鑑賞	第12回 能狂言公演	主催	2019年 2月24日(日) 15:00開演	11月4日(日)	なぎさホール	一般 ／516名	全席指定 一般3,500円 小中学生1,000円	451名 (87.4%)	*未就学児入場不可
トモイク	第3回トモイクフェスティバル連携 ホールシネマ「世界でいちばんのイチゴミルク のつくり方」	主催	2019年 3月3日(日) 14:00上映開始	12月8日(土)	なぎさホール	一般 ／558名	全席自由 800円	152名 (27.2%)	*0才からチケット必要
地域資源	若手演奏家シリーズ #8 木管五重奏の愉しみ	主催	2019年 3月9日(土) 14:00開演	11月4日(日)	さざなみ ホール	一般/ 110名	全席自由 1,000円	141名 (128.1%)	*未就学児入場不可
トモイク	市民企画講座 舞台技術体験講座	主催	9月29日(土) 10月8日(月・祝) 10月20日(土)	8月25日(土) 募集開始	さざなみ ホール	中学生以上/8名	無料	1名 (12.5%)	*3回連続受講講座 *最終回は舞台スタッフと一緒に ZPFの舞台運営を行う
まちづくり	絵本作家 山本省三さんと 一緒に絵本をつくろう2018 こどものための手作り絵本講座	主催	7月16日(月・祝) 7月22・29日(日) ①10:00 ②13:30	5月13日(日) 募集開始	市民交流 センター	小学生以上/各回35 名	参加費 1,500円	①35名 (100.0%) ②34名 (97.1%)	*小学2年生までは保護者同伴
	絵本作家 山本省三さんと 一緒に絵本をつくろう2018 おとなのための手作り絵本講座		11月18日(日) 12月1日(土) 12月9日(日) 13:30～15:30	9月15日(土) 募集開始		中学生以上/35名	参加費 1,500円	①34名 (97.1%)	*定員になり次第締切
まちづくり	スペインセーリングチーム 事前キャンプ 協定締結式ミニコンサート	主催	9月18日(火) 12:35開演	-	逗子市役所 1階 市民ホール	どなたでも	無料	-	*Lilio Quintet(木管五重奏)
まちづくり	レセプション フォローアップセミナー	主催	2019年 1月22日(火) 1月26日(土)	-	なぎさホール	レセプショ ニスト /21名	-	15名 (71.4%)	同内容を2班に分けて行う
まちづくり	情報発信ボランティア交流会	主催	3月16日(土)	-	交流センター	ボランティアライター /12名	-	10名 (83.3%)	

	事業名	開催形式	実施日時	発売月日	会場	対象／定員	チケット料金	入場者数 (入場率)	備考
まちづくり	逗子子ども能2018	主催	お稽古 5月-2019年2月 懇親会 3月11日(月)	5月13日(日) 申込締切	なぎさホール さざなみ ホール	市内 小中学生 ／30名	参加費 一人 8,000円	19名	*お稽古 全21回
	第11回 逗子子ども能2018発表会		2019年 2月24日(日) 10:30開演	-	なぎさホール	どなたでも ／500名	全席自由 無料	213名	
まちづくり	ZAF2018連携企画 ゴローさんとホールに描く オーバークラスドローイング! ワークショップ	主催	①8月5日(日) ②8月29日(水) ③9月9日(日) ④9月15日(土) ⑤10月13日(土)	-	ホール1階 ロビー	小学生以上／各回5名	無料	①- ②6名(120.0%) ③9名(180.0%) ④8名(160.0%) ⑤11名(220.0%)	①デモンストレーション ②ワークショップ第1弾 ③ワークショップ第2弾 ④ワークショップ第3弾 ⑤ワークショップ第4弾 (リモートワークショップ from Netherland)
まちづくり	ZUSHI COMMUNITY PARK GARDEN CAFE KAMEGAOKA 2018 AUTUMN との連携 若手演奏家の出演	-	11月3日(土) 12:00出演	-	亀岡八幡宮	どなたでも	無料	-	*主催: 逗子コミュニティパーク実行委員会 *出演名称: 木管五重奏 (若手演奏家シリーズ #8 出演者)
社会的 包摂	アウトリーチ アート便2018	主催	9月～ 2019年3月 開催	6月15日(金) 募集締切	市内各学校 他	小中学生 他	無料	①55名 ②423名 ③135名 ④83名 ⑤106名 ⑥93名 ⑦151名 ⑧182名 ⑨164名 ⑩231名 ⑪156名 ⑫146名 計1,925名	落語(三遊亭わん丈) ①9月13日(木)小坪小学校5年生(1) ⑤10月19日(金)久木小学校4年生(1) ⑥10月23日(火)沼間小学校6年生(1) ⑦10月23日(火)逗子小学校5年生(2) ⑫2019年3月6日(水)沼間中学校 1・3年生(2) 太神楽(翁家勝丸/おきなやかつまる) ②9月19日(水)小坪小学校全学年(1) ※スペインセーリングチーム交流会 ③9月28日(金)逗子小学校3年生(2) ⑩2019年1月22日(火)逗子中学校 1・2年生(3) 音楽(ブリッツフィルハーモニックウインズ) ④10月9日(火)沼間小学校3年生(2) ダンス×ミュージック(EMPTY KRAFT) ⑧12月11日(火)池子小学校3・4年生、5・6年生(2) ⑨12月19日(水)久木中学校2年生(2) ⑪2019年3月1日(金)久木中学校3年生(2)
まちづくり	ZAF2018キックオフパーティー	提携	10月7日(日) 18:00～22:00	-	なぎさホール ホワイエ	どなたでも	-	30名	*会場提供
まちづくり	ZAF2018クロージングパーティー	提携	11月4日(日) 19:00～21:00	-	さざなみホール	どなたでも	-	50名	*会場および舞台技術提供
トモ イク	逗子トモイクフェスティバル	共催	2019年3月 23日(土) 24日(日)	-	なぎさホール さざなみ ホール ギャラリー	一般	-	1,441名	*会場および舞台技術提供 *最終集計の延べ人数

2. 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会規則

(趣旨)

第1条 この規則は、逗子市文化振興条例（平成21年逗子市条例第15号）第7条第1項の規定に基づき、逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会（以下「委員会」という。）を設置し、その運営について必要な事項を定めるものとする。

(所掌事項)

第2条 委員会は、次に掲げる事項について調査及び評価を行い、その結果を教育長に提言する。

- (1) 逗子市文化振興基本計画（以下「基本計画」という。）における施策に関する適切な実施に関すること。
- (2) その他基本計画に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、委員5人以内をもって組織する。

(委員)

第4条 委員は、次に掲げる者のうちから教育長が委嘱する。

- (1) 公募による市民
 - (2) 学識経験を有する者
 - (3) その他教育長が特に必要であると認める者
- 2 委員の任期は、3年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 3 委員は、再任されることができる。

(委員長等)

第5条 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員の互選により定める。

- 2 委員長及び副委員長の任期は、委員の任期による。
- 3 委員長は、委員会を代表し、会務を総理する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会の会議は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 委員会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の議事は、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第7条 委員長は、必要があると認めるときは、専門的事項について学識を有する者、市職員その他の者に対し、その出席を求めて意見又は説明を聴くことができるほか、資料の提出その他必要な協力を求めることができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、文化スポーツ課において処理する。

(委任)

第9条 この規則に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、教育長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この規則は、平成24年4月1日から施行する。

(招集の特例)

- 2 委員会の最初の会議は、第6条第1項の規定にかかわらず、教育長が招集する。

3. 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会 名簿

役職	委員氏名	団体名、所属等
委員長	伊藤 裕夫	学識経験者（元富山大学芸術文化学部教授）
副委員長	富岡 幸一郎	学識経験者（鎌倉文学館館長）
	山崎 稔恵	学識経験者（関東学院大学教授）
	奥野 花代子	（市民）

（敬称略）

4. 逗子市文化振興基本計画 調査・評価委員会 会議日程

第1回 会議

開催日時：令和元年6月12日（水）午前10時～午前11時30分

開催場所：市役所 第一会議室

出席委員：伊藤裕夫委員長、富岡幸一郎副委員長、山崎稔恵委員、奥野花代子委員

議題：（1）平成30年度事業に関する評価の対象、方法について
 （2）令和元年度文化振興事業について
 （3）その他

第2回 会議

開催日時：令和元年8月21日（水）午前10時～午前12時

開催場所：市役所 第一会議室

出席委員：伊藤裕夫委員長、山崎稔恵委員、奥野花代子委員

議題：（1）平成30年度事業に関する評価について
 （2）令和元年度（平成30年度対象）逗子市教育委員会点検・評価に関する報告書について
 （3）その他

逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会
平成30年度事業に関する評価報告書

発行 逗子市文化振興基本計画調査・評価委員会
発行日 2019年（令和元年）9月
編集 逗子市市民協働部文化スポーツ課
〒249-8686 神奈川県逗子市逗子 5-2-16
TEL: 046-873-1111 FAX: 046-873-4520
E-mail: bunkasports@city.zushi.lg.jp